

令和２年度 山形県立荒砥高等学校 学校評価書

自 己 評 価 達成度 5:きわめて達成度が高い、4:概ね達成できた、3:できた、できないが半々くらい、2:達成できないことが多い、1:ほとんど達成できなかった					次年度に向けて	
重点目標		具 体 的 目 標	達成指標や方策など	達 成 状 況	達成度	
Ⅰ	「信頼され、前進する荒高生」の育成	I 実践目標の重点的な取り組み	・月ごとに、重点実践目標を掲げ、より具体的に実践すべき事項を明確にしながら目標達成を図る。 ・学期ごと振り返りの機会を設け、生徒が主体的に目標達成できるようにする。	○重点実践目標については、職員会議等での確認、さらに生徒会活動として、生徒会やHR委員を中心に呼びかけができ、クラスへの通知が適切に行われている。 △月ごとの目標の明確化がなされ、取り組むべき課題が明確になっているが、学期毎の振り返りが足りなかった。	3.7	・生徒がより強く月ごとの目標を意識する手立てとして、もっと生徒会活動とリンクさせる等の工夫も考えられる(校内放送での呼びかけ等)。
		(1) 相手の立場に立ち、思いやりのある心で行動する。	・いじめや体罰のない学校づくりのために、年3回の実態調査を実施し、適時の指導に努める。 ・悩みや問題を一人で抱えることのないように、面談を適宜実施し、相談しやすい環境づくりに努める。	○いじめ等の調査は、全職員の協力の元、計画通りに実施できた。アンケートに何か気になる記載事項があれば、年次で個別面談等を実施し現状把握に努めた。 ○生活実態調査をもとに個別に面談等を行い、問題の発見につながっている。また迅速に対応できたことで学校と保護者との信頼関係を構築することができた。 ○OSCとの連携も含めて、適切に丁寧に対応している。相談体制も整備されている。 △年次担任団が面談を実施できる時間的余裕・心理的ゆとりがほしい。	4.2	・SNSにおけるトラブルが発生しているので、使用マナーを徹底させる必要がある。 ・年次担任団が面談を実施できる環境と時間の確保。
		(2) 元気なあいさつで、明るい学校にする。	・生徒会が中心になって服装やマナー遵守を呼びかけ、違反0を目指す。 ・校外においても元気な声であいさつできるように呼びかける。	○生徒会が毎朝、挨拶運動を実施し、明るい学校生活の基盤とすることができた。 ○生活委員を中心とし、生徒主体の活動ができている。服装や頭髮等の違反者はほぼゼロであり、全体が落ち着いた身だしなみである。 ○特別指導がなかった。 △生徒会の挨拶運動の効果もあり、挨拶の習慣はかなり定着しているが、まだ声が小さい生徒も見かけられる。	3.9	
		(3) 服装を整え、時間を守って行動する。	・月ごとの服装・身だしなみ点検の日のみならず、毎授業の指導を徹底し、全職員で対応する。	○毎月の身だしなみ点検では、生徒同士の点検によりほとんど違反生徒は見られなかった。 ○生活委員が中心に身だしなみ点検を行っていることが更に効果を上げていると感じる。 ○全職員が同じ目線で指導を行うことで成果を上げているが、靴下の丈や色など、再度教員間で共通認識を持つべきところもある。	4.3	・毎月の身だしなみ点検は必要かどうか。学期ごとや、衣替えの時期などに限定してはどうか。 ・全職員が同じ目線で指導を行う。
		(4) 授業を第一に、課題は100%提出する。	・全年次とも朝学習を定着させて基礎学力を養い、授業に向かう姿勢を高める。また、教科・年次で連携し、課題提出100%を達成させる。	○非常に落ち着いた授業態度である。授業に向かう姿勢も概ね良好であり、これまでの授業研究の成果がでていていると思われる。 ○提出率は高い水準で維持している。今後は提出したかどうかだけでなく、内容にも目を向けていく必要がある。 △一部の特定の生徒において課題の提出がままならない状況にある。今後も継続的指導が必要と思われる。 △毎朝静かな環境で学習ができています。しかし、家庭学習の習慣が身についておらず、学習に対する姿勢が充分でないのが課題である。	4.2	・基礎学力の定着に向けて、スタディサプリの活用方法など、さらなる工夫が必要である。 ・効果的な朝学習の方策として、年次と教科との連携や実践した効果の可視化。
		(5) 資格取得に挑戦し、年1資格以上取得する。	・漢字検定準2級・3級16名以上、英検準2級・3級4名以上、数検準2級・3級10名以上、・ビジネス文書実務検定・情報処理検定の1・2級5名以上、介護職員初任者研修受講希望者全員合格、救急救急員講習受講者全員の合格を目指す。	△英検3級2名、漢検準2級1名、3級5名合格。食物調理検定3級8名、保育技術検定3級13名、ビジネス文書実務検定1級1名、2級2名合格。 △コロナ禍にあって、介護職員初任者研修や救急救急員については、実施すらできなかったが、そのような中でも、検定試験に挑戦し、合格したものが増え、資格取得に対する意識が向上した。	2.9	・準会場として実施するために、受検のさせ方を検討する必要がある。 ・次年度の介護職員初任者研修実施に向けて準備中。
		(6) 全校生徒一致団結し、生徒会行事を成功させる。	・生徒会執行部を中心に企画・運営を行い、生徒一人ひとりが主役となり、達成感を持てる行事づくりを行う。 ・生徒が前面に立ち、創立80周年に向けて本校の更なる変容と飛躍を目指す。	○生徒会執行部が主体的に活動できており、学校の核となっている。 ○学校行事が少ないうえに制限があったが、生徒自身がアイデアを出し、工夫して運営していた。 ○コロナ禍のために体育祭を始めとする学校行事の中止を余儀なくされて、3年次としてリーダーシップの発揮や上級生としての活躍する機会が失われたり、縮小されたりした。そのような中でも、生徒会を中心に学校祭やクラスマッチなどアイデアを出しあって実施出来たことは素晴らしい。また、さまざまな行事に積極的に臨む態度が見られたことも喜ばしい。	4.2	・生徒会役員の生徒は、他の活動においても中核となるため多忙で、部活動もできない状況になっている。役割の整理が必要。 ・少人数化が進む中で生徒会並びに行事等の運営のあり方の再考。
		(7) 部活動等に積極的に取り組み、部の目標を達成する。	・荒高部活動スローガンCCC(トリプルC)「挑戦・仲間・継続」を各部で具体的に推進し、部活動満足度90%以上を目指す。 ・運動部:短期目標、長期目標を掲げ、日々の活動の充実を図る。日常の部活動参加率100%を目指す。 ・文化部:囲碁部の全国大会を目指す。吹奏楽部の大会出場・演奏会の成功、美術部の作品出品の充実を図る。	○コロナ禍のため、制限がなされたが、生徒たちはその中でもやれることを頑張ったと評価したい。 ○部員数が確保できず、活動が難しい部もあるが、生徒たちの満足度は高いと思われる。しかし、諸活動と重なり、部活動参加率が低下している。 ○キャンパス制事業については、長井工業高校とのフラワー長井線車両清掃ボランティアのみでの交流となったが、制限のある中、率先して参加できた。 △運動部は人数減で活動が充分でなくなり、そのことがさらに人数減を招いている。	4.0	・生徒数の減少に伴い、今後さらに部活動の再編が必要である。 ・限られた部活動時間の保証を全体の共通理解に。 ・活動の幅を広げられる取り組みとして、地域に参画できるような部活動を創設できないか。
		(8) 図書館を利用し、月1冊以上読書する。	・図書館報の発行と読書強調週間の実施で、生徒が読書に親しむよう工夫し、一人月1冊以上の図書貸し出しを目指す。 ・各授業での図書館利用を推進する。	○読書強調週間を実施できた。20分の時間を確保し、集中して読書ができる環境を整えた。生徒からは、時間が足りないという声も聞かれた。読書に親しむ生徒は確実に増えていると感じる。 ○国語科、社会科、英語科等の調べ学習で図書室を利用した。また、新聞を活用する活動を行い、新聞を読む意識を持たせることができた。 △読書に対する興味が薄く図書館利用・貸し出しがほとんどない生徒もあり、図書館利用拡大に向けて更なる方策を図っていく必要がある。	2.7	・次年度への方策としてSDGsコーナーを授業で活用するなどし、調べものや読書を推奨する。
		(9) 隅々まで丁寧に清掃し、日本一きれいな学校にする。	・一斉清掃において、一人ひとりの役割を明確にすることで意欲の向上と清掃の徹底を図る。 ・校内外の環境の美化活動を、自主的なボランティア活動の推進により拡大する。 ・学校の環境整備・美化の実践を通して、学校施設を愛護する「母校愛」を育てる。	○清掃自体は一生懸命に取り組めている。日々の清掃活動において、少人数で主体性を持って清掃活動が行われた。 △生徒数の減少で、なかなか行き届かない場所や大掃除でも時間が足りない場面が出てきた。 ○積極的に清掃に臨む態度が見られる。また、清掃場所等と見直されて昨年より改善されたが、校内の清掃が行き渡らない課題がある。	4.0	・週ごと、月ごとに重点化したり、縦割りの班を検討したりするなどの対策が必要である。次年度以降はもっと深刻である。
		(10) 自らボランティア活動に年2回以上参加する。	・地域の諸活動に積極的に参加し地域貢献に努める。(年次ボランティアの他にも自主的に1回以上のボランティアに参加する。) ・生徒会主体でボランティアの企画・参加者募集に取り組む。	○コロナ禍のため、制限がなされたが、生徒たちはその中でもやれることを頑張ったと評価したい。 ○コロナ禍により実施が困難であったが、フラワー長井線の車両清掃や除雪ボランティアに多くの生徒が参加した。数少ないボランティアに積極的に参加した。 △コロナ禍のためにボランティアの機会が減少し、積極的に取り組めなかった。	2.5	・町のボランティアサークルの活性化に期待したい。
		II 生徒会スローガン達成の支援	・「Change～飛躍・挑戦・新たなステージへ～」のスローガンのもと、生徒会活動を活発化し、生徒主体の学校づくりを目指す。 ・生徒会役員の研修会を実施し、企画力や運営力を高める。	○活発な生徒会活動であった。 ○新しい生活様式の中で創意工夫しながら生徒会活動を行えた。 ○生徒会執行部を中心に積極的に活動を行い、荒砥高校をアピールすることができた。	4.0	・人数減なので、生徒会、委員会の編成も見直す時期である。 ・生徒会だけでなく、全生徒を巻き込んだ取り組みにする必要がある。

自 己 評 価					達成度		5:きわめて達成度が高い、4:概ね達成できた、3:できた、できないが半々くらい、2:達成できないことの方が多い、1:ほとんど達成できなかった				
重点目標		具 体 的 目 標		達成指標や方策など		達 成 状 況		達成度		次年度に向けて	
2	魅力ある学校の創造	① 教育課程の具現化とキャンパス制の円滑な運営を行う。		①「産業社会と人間」の実施内容の工夫と記録により次年度以降に向けての改善を図る。 ②教育課程の円滑、かつ効果的な運用を目指し、各種整備に努めるとともに、総合学科の特徴的な学習内容等を、様々な機会を利用し積極的に外に向かってPRする。 ③系列の特徴を生かし、生徒個々の進路目標の実現を具現化する。 ④日常の活動をキャンパス制の視点で見直し、互いのメリットとなるよう積極的な活用を行う。		○令和4年度から実施される新学習指導要領に対応した教育課程の1次案を編成した。 ○今年度の実施内容を参考に、次年度の年間指導計画を作成中。 ○多くの外部講師を招いて地域に関わる内容の講演を実施したり、1日地域巡検で実際に地域の人と交流し、自然や歴史に触れ、生徒自分が自分の住む地域の良さを見直すことができた。また、SDGs講演やワークショップを実施し、世界の課題解決には身近な自分の行動にかかっていることを学んだ。 ○生徒個々の進路目標の実現は概ね達成できた。 △コロナ感染予防のために、キャンパス制学習交流会などの生徒の交流の機会が持てなかった。		4.0		・教育課程の編成にあたっては、PDCAサイクルを回して、より良いものにしていく必要がある。さらに、「社会に開かれ教育課程」の実現のために、地域との連携も必要になる。 ・「産業社会と人間」で得た人的資源（外部講師）を来年度以降につなげていければよい。また、2年次の総合的な探究の時間にどのようにつなげていくべきか。	
		② 「主体的・対話的で深い学び」と「ユニバーサルデザイン化」された授業を行う。		①各授業において、学習のユニバーサルデザイン化を推進し、全ての生徒にとって分かりやすい授業を展開する。 ②校内授業公開週間(年2回)や10月実施の公開授業研究を通して、アクティブラーニングを意識した授業方法を研究・実践していく。		○コロナ禍により、校内授業公開週間は実施できなかった。10月の公開授業は、校内のみで授業研究として実施し、事後研究はグループごとに行い、レポートを提出してもらった。 ○各教科でアクティブラーニングの意識が浸透してきており、活発な探究活動、発表活動がなされている。 ○校内研修の授業の実践や研究により、ユニバーサルデザインを積極的に取り入れ、多様な生徒に対応している。		4.0		・「深い学び」につなげていくことが、今後の課題。 ・教室掲示の工夫。	
		③ キャリア教育の充実を図り、進路希望を100%達成する。		①「産業社会と人間」、「ライフデザイン」を柱としながら、3年間を通してキャリア形成を行い、生徒の自己理解と進路意識を深めさせる。 ②教科担当者・年次団を中心に、進路意識の高揚と目標維持に努め、資格取得や模擬試験、大学入学共通テスト等への挑戦を促す。 ③就職指導の充実を図るとともに、進学希望者への個別指導を計画的に推進し、就職・進学両面のきめ細やかな指導体制を構築し、実績を伸ばす。		産社・ライフでの一貫したキャリア学習ができています。 ○コロナ禍の影響で、変更を余儀なくされることもあったが、1年次では働く意義についてのワークショップを外部（株式会社さんぼう）に委託し、キャリア形成を目指す指導が継続できた。 △コロナ禍の影響が、資格取得への挑戦は低調だった。また、現在の指導体制では大学入学共通テストへの挑戦は難しいと考える。 ○例年と異なり、就職試験が1か月後ろ倒しになるなか、就職・進学指導を何とか両立することができ、概ね希望を達成することが出来た。 ○コロナ禍の影響で計画を変更して、新しい生活様式に対応した新たなスタイルを模索して取り組み、キャリア形成に務めた。 荒高魅力化を始め地域・保護者のニーズがどこにあるのかを把握しつつ、本校に目指すべき道を模索していく必要がある。		3.7		・「総合的な探究の時間」には3年間の繋がりを見据えた計画が必要。キャリア学習に偏らない内容に変えていく必要がある。様々な探究課題学習を計画・実施するために議論が必要であり、そのためには年次単独ではなく、総括するリーダーシップが求められる。 ・進学は推薦・総合型選抜の利用に向けた指導の在り方の検討が必要。 ・荒高魅力化計画と合わせ本校の探究の形を構築し、教科間横断を含むカリキュラムの作成。 ・進路の手引きなどの指導マニュアルを作成し、生徒・保護者・教員が共通理解した進路指導の構築。	
		④ 生徒の活力みちた学校行事、部活動とする。		①生徒会執行部を中心に企画・運営を行い、生徒一人ひとりが主役となり、達成感を持てる行事づくりを行う。 ②荒高部活動スローガンCCC(トリプルC)「挑戦・仲間・継続」を各部で具体的に推進し、部活動満足度90%以上を目指す。また、日常の部活動参加率100%を目指す。		○今年度については、様々な行事が削減、縮小され、非常に残念だった。それでも、工夫しながらなんとか行事を行おうとする生徒の姿があった。特に、学校祭では、一般参観なし、日程縮小の中でも、非常に充実した内容であった。 ○多くの生徒が部活動に参加し、積極的な活動を展開している。一方で能力ある生徒が生徒会活動と部活動の両面で被っている現状があり、両立に苦慮する課題もある。		4.0		・今年度、行事が実施できずに終わり、切れ間ができてしまった。引継ぎか新しいスタイルを確立するのか、早めの指導が必要。 ・荒高魅力化と部活動の関わり。	
		⑤ 生徒の多様化に対する個に応じた指導を行う。		①具体的な個別支援の方法の研修会を実施する。 ②二者面談年2回、3年次では二者面談および三者面談(必要に応じて複数回)、MC委員会を毎月1回実施し、生徒の状況を共有し指導に資する。		○充実した支援員の体制により、生徒は安心して学校生活を送っている。 ○生徒理解研修会、通級研修会を実施し有意義であった。 OMC・特別支援委員会、SC、保護者、医療機関等連携し、困り感のある生徒指導にあたった。 ○二者面談を実施し、生徒の状況を適切に把握することができた。2年次は主任面談を実施し、全員の進路把握と指導体制強化につとめた。また、三者面談では、保護者の都合で遅い時間帯であったり、休日を返上しての開催になることが多かった。		4.1		・支援の仕方について、授業担当者と支援員の連携を深めることも必要か。 ・教職員の少人数化に対応した会議の整理。	
3	地域と連携した特色ある教育	① 地域貢献活動や地域との交流に積極的に取り組む。		「活力あふれる高校づくり推進事業」により、①地域内で多様なボランティア活動を継続し、②生徒会の研修を実施し主体性・企画力を伸ばす。		○コロナ禍のため例年ほど実施できなかったが、1月・2月に除雪ボランティアが計画されて、実施となった1月には任意にも関わらず多くの生徒が参加した。		2.8			
		② 地域企業の就業体験や「学びサポーター」体制を充実させる。		①報償費の確保と実施計画の作成により、「学びサポーター」による授業の実施回数を昨年以上に増やし、総合学科の特徴作りに努める。 ②これまでの伝統を引き継ぎ、就業体験と学校生活とを結びつけた実施計画により、生徒のキャリア形成を効果的に促す。		○コロナ禍の影響により、就業体験活動は実施できなかった。代替の各種取り組みをライフデザインの中で行った。 ○「学びサポーター」による授業サポートによって、特別支援対象生徒を中心に学力定着の成果が出ている。		4.0		・次年度の実施に向けて、準備を進める。 ・継続的な支援をお願いしたい。	
		③ 特色ある教育活動を推進し、保護者・地域・中学生を中心に積極的に情報を発信する。		①年次便り10号以上発行などを目指し本校生徒の活躍と本校の魅力の積極的な発信を心掛ける。広報紙「いなりだい」の年2回発刊。 ②学校案内やHP、「かわら版」、PRポスター等を工夫し、広報活動を充実させる。 ③生徒を前面に出したPR活動を実施する。		○1日体験入学や各中学校での進路学習会などで、生徒を前面に出したPR活動を行い、中学生や保護者からも良い反応を得ることができた。 ○「魅力化連携協議会」ができたことにより、町と連携しながら、PR方法を模索できた。特に、SNSを利用したり、ポスター作成の協力や、町の施設を利用させてもらったり、工夫することができた。 ○広報紙「いなりだい」を年2回発刊した。 ○年次便りを各年次とも月1回程度発行し、学校での活動の様子を保護者に示すことが出来た。		4.2		ポスター制作時期を早め、中学校の進路選択時期に合せることが必要。	
4	課学題校	定員40名の確保		①生徒を前面に出したPR活動を展開する。 ②中学校への「かわら版」などの広報活動を継続する。 ③マスコミを通した積極的な情報発信に心掛ける。 ④中学生と合同の催事(地域防犯ネットワーク・部活動)の充実を図る。		○Facebook・Twitter・Instagramのアカウントが後期から始動し、生徒が自主的に撮影・出演した動画も投稿され、在校生の中でも「#荒高のいいところ」をPRしていいこうという雰囲気がある。 ○新たなPR活動や学校説明会を開催など積極的に実施した。山形新聞・全国紙地方版やTVなどで生徒の活動を積極的な情報発信している。		5.0		・山形新聞への広報活動を積極的に依頼する。 ・情報発信(取材)を担う機関(組織)の整備。 ・HPの刷新、魅力化専用ページの開設。	

学校関係者評価	・ボランティア活動の評価は、コロナ禍による影響だと私は思います。生徒は積極的な気持ちはあると思います。 ・小規模校ならではの一人一人の生徒に行き届いた取り組みができていてと感じておりますので、その良さを引き続き生かしながらの学校経営に期待しています。 ・近所に住んでいる者として、学校周辺を通りますが、グラウンドは草があったり、フェンス周辺の樹木などの落葉した葉は側溝にたまってしている。周辺環境の整備にもっと目を向けていただきたい。 ・今年度のコロナ禍の影響で各大会が中止でしたがyoutubeでも定期演奏会の活躍を拝見し、とても素晴らしい頑張りで感動させられました。 ・特に今年度はSNSで生徒の様子や荒砥高校のいいところを見せていただきましたので、引き続き楽しい情報発信を期待しています。 ・活躍の発信がなされ、多くの町民、県民にその頑張っている姿や考え方を広めることができ、とても誇らしく思っています。
---------	---